News Letter

女性研究者活動支援室

2016. 4
第3号

大学共同利用機関法人 情報システム研究機構　ROIS — Research Organization of Information and Systems

平成27年度トップセミナー「女性研究者・女性職員の活躍にむけて：採用・登用とエンパワーメント」を開催しました！

2016年1月28日

平成28年1月28日（木）、情報・システム研究機構本部会議室、及び各研究者会議室を結んで、平成27年度トップセミナー「女性研究者・女性職員の活躍に向けて：採用・登用とエンパワーメント」が開催されました。講師として沖縄科学技術大学院大学（OIST）副学長のMachi Dilworth氏、前情報・システム研究機構理事の郷通子氏、本年1月より当機構の理事に着任された藤井良一氏（名古屋大学教授、前名古屋大学理事・副学長）をお迎えし、先進的な取組をしているOISTと名古屋大学の事例を学びながら、当機構の男女共同参画事業を振り返りました。そして、女性研究者・女性職員の活躍に向けた課題について、講師の先生方、北川源四郎機構長、桂勲男女共同参画推進委員長をパネリストに、パネルディスカッションを行いました。当日は、85名（機構本部会場41名、テレビ会議会場44名）の参加があり、男女共同参画をテーマに活発な討論が行われました。

PROGRAM

- 14:00 「はじめに」
  北川 源四郎　情報・システム研究機構長
- 14:05 「OISTにおけるダイヴァーシティへの取り組み」
  Machi Dilworth氏　沖縄科学技術大学院大学副学長
- 14:45 休憩
- 15:00 「名古屋大学における女性研究者増員のための取組みと今後の課題」
  藤井 良一氏　名古屋大学教授、前名古屋大学理事・副学長
- 15:40 「ROISの女性職員の採用・登用とエンパワーメントの現状と課題」
  郷 通子氏　前情報・システム研究機構理事
- 16:10 パネルディスカッション「女性研究者・女性職員の活躍にむけて」
  司会　幅崎 麻紀子　女性研究者活動支援室コーディネータ
- 16:55 「おわりに」
  桂 勲　情報・システム研究機構理事　国立遺伝学研究所長、男女共同参画推進委員長

最初に、北川機構長から「女性研究者のエンパワーメントに力を入れながら、各々の領域において新しい能力を持ったすばらしい研究者の育成に今後も務めていきます」とのご挨拶がありました。

北川機構長の挨拶

次に、Machi Dilworth氏から「OISTにおけるダイヴァーシティへの取り組み」と題してご講演がありました。Dilworth氏のご講演「OISTにおけるダイヴァーシティへの取り組み」では、OISTのミッションや成り立ちについてのご説明の後、OISTにおいて、「基本的な価値観として、多様性が尊ばれており、その価値観に基づいてOISTの長期的プランは作られている。そのプランの目的の1つに、『各々の能力を発揮できる職場環境の提供』がある」とのお話がありました。具体的な職場環境整備としては、キャンパス内には、子供の発達を促すための「チャイルドディベロプメントセンター」が設置されていて、未就学児の保育や就学児童のアフタースクールプログラムを、送迎付きで、日英バイリンガルの職員によって行われているとのことです。おむつ交換台や授乳等に利用できる「マザーズルーム」、出張時の保育補助として「ベビーシッター代の補助、子供の旅費を補助するしくみ」もあり、また、教職員、学生、家族のためのキャンパス内のメディカルセンターには、医師、看護師、又ウェルネスセンターには臨床心理士が常駐しているとのことです。さらに、沖縄での日常生活に関する情報提供のためのリソースセンター、ハラスメントを受けた際には、学外の契約弁護士に相談できるしくみがとられているとのことです。

採用・昇進の面ではバイアスがないように、様々な手続きを組み込んでいるとのことで、教員の採用活動時の「サーチコミッティ」のメンバーには、「潜在的バイアス研修」を受講してもらい、さらに、ダイバーシティオフィサーを決め、教員採用選択の過程において性別による差別がないかどうかを随時確認していること、教員採用の際には、パートナーも研究者の場合、独立した研究員として雇用するしくみがあるとの説明がありました。また、出産（あるいは配偶者が出産）や養子縁組をした場合に、通常5年目にあるテニュア審査を1年間延長申請できる「Stop-the-Clock」という制度が開始したとのことです。

2014年には「男女共同参画タスクフォース」を設置し、「男女共同参画に責任を持つ部署を作り担当副学長を置くこと、環境整備、主な職種のジェンダーバランスを最低でも30％以上とする」ことを理事会に提言、承認され、ディルワース副学長が2015年4月就任、今後も長期的な戦略を作り、OISTのダイヴァーシティ

Machi Dilworth氏による講演

を推進していくとのことです。

最後に、大学において男女共同参画推進を成功させるには学長の100％のコミットのみならず、学部長等のミドルマネジメントレベルのコミットメントが不可欠であり、活動のための資金も不可欠、そしてキャンパスで学び働くすべての人から賛同の得られる改革である必要があると、お話を締め括られました。

休憩後、平成27年3月まで6年間、名古屋大学にて男女共同参画担当理事を勤められた藤井良一氏より「名古屋大学における女性研究者増員のための取組みと今後の課題」と題してご講演がありました。

藤井良一氏による講演

「女性教員増は、教育研究の向上と活性化、国際競争力を持つ上でも必須であり、学生数が減る中、女子学生が入学してくることが重要」とのことで、ポジティブアクションとして、意識改革や女性教員増に向けて、優秀な人を雇用することとともに有能な若手女性教員を育成することを行っているそうです。その方法として、「様々な補助事業を実施したり、全部局に男女共同参画委員会を設置している。具体策として、『小1の壁』を支援するために、保育園、学童保育を展開し、男女共同参画報告書を2002年から毎年発行しており活動報告を行い、役員会で毎年の重点項目を承認してもらっている。また、毎年部局アンケートを実施し、女性の応募状況や階層別女性数、女子学生比率等の記録を取り続け、現状がわかるシステムを作っている」とのことです。

女性教員増員策としては、女性限定の国際公募による「女性PI枠」や若手女性育成のための枠を設け、数年後には部局定員に組み込むことを原則として最初の数年間の雇用経費を本部が負担しているそうです。これらの施策もあり、名古屋大学ではこの5年間で、全教員1,700名の中で女性教員が40名増加しました。

引き続き継続的なポジティブアクションが必須で、部局長クラスには女性がほとんどおらず、部局長のキャリアを積んで理事になるケースが多いが、そのソースとなる人材がいないことが、今後の課題とのことです。「女性活躍推進法は大きなチャンスで、学術会議に働きかけて、女性比率の向上が大学評価項目となることを働きかけている。成果が上がるには長い道のりだけど、目標をもって促進強化する必要がある」と講演を締め括られました。

郷通子氏による講演

次に郷通子前理事から「ROISの女性職員の採用・登用とエンパワーメントの現状と課題」と題してご講演がありました。

子どもが小学校3年生まで育児休業の取得を可能にするなどの規則の改定、女性研究者総覧「羽ばたけ～日本の女性研究者」の開設、第2回「日米女性研究者シンポジウム」の協賛、スウェーデン大使館との共催によるシンポジウム「スウェーデンに学ぶ：女性の多様な研究力とワークライフバランス」、女性研究者研究活動支援事業への応募・採択、支援事業採択後のキックオフシンポジウム、論文執筆合宿等、ROISの男女共同参画推進活動の経緯についてお話をされました。

機構の女性教職員比率についても触れられ、「国立大学に比べると、教授が多いということが機構の特徴である。女性がいないといわれている情報学の分野においても、情報学研究所では女性の教授が4研究所の中では多く、機構の事例は誇りになる」とおっしゃっていました。「これまで男女共同参画推進施策のウェイトが、女性研究者の方に偏ってしまい、事務職の男女共同参画が進んでいない」ことを課題として述べられました。

トップセミナー会場

機構の女性教員比率目標については、「国大協のデータでは、女性教員比率は毎年上昇しているが、その中には特定有期雇用教員が入っている。しかし機構では承継職員の女性教員比率を上昇させることを目標として掲げている」「女性は、最初から上位ポストを目指すこと、そのためには、国際的な舞台で評価されることが必要」「女性研究者をエンカレッジすること、すなわち賞に推薦することも大事なので、所長や機構長の先生方に、ぜひ推薦をしてあげて下さい」と機構職員を激励されました。

フロアーからは、各講演者へ、「介護支援について」「優秀な女性の発掘方法」「女性を甘やかさないためには」「人材バンク」等の質問があり活発な議論が行われました。

●パネルディスカッション

パネルディスカッション

パネルディスカッションの冒頭、機構長から「ポジティブアクションの導入によって少しずつ動いてきた。3人の講師の方がおっしゃられた人事委員会でのダイバーシティのチェックという観点が重要で、今後も効果的な支援を続けます」との力強いコメントがありました。桂室長は「郷先生を引き継いで、男女共同参画と女性研究者支援を推進していきます」と述べられました。

パネルディスカッションでは、ディルワース氏から「ROISとOISTは大学院生しかいない教育機関である点など、似ている所があるので協力していきたい」とのコメントが、藤井氏からは「システムを作ることは長い道のりで、強いポジティブアクションが不可欠。継続性があり、しっかりと努力できるようなシステムを作っていくことが必要」、郷氏からは「世界中から優秀な研究者を集めているOIST、先進的な取り組みをしている名古屋大学の事例を聴き、これからも力を尽くしていきたい」とのコメントがありました。フロアーからも「学位をとった人の中で研究者と異なるキャリアパスも増えてきたが、それも評価すべきではないか」との意見が出されました。

最後に桂室長が「これからの男女共同参画及び女性研究者の研究支援を少しずつ考えていきたい」と抱負を述べられました。

桂理事の閉会挨拶

インタビュー特集

新男女共同参画推進委員長・ROIS女性研究者活動支援室室長に訊く！今後のROIS女性研究者活動支援事業は？

桂勲委員長

Q1 昨年12月に男女共同参画推進委員長、女性研究者活動支援室長となられたことについて、まず最初にお考えになったことは？

委員長：北川機構長から依頼された時に、最初に考えたのは、郷先生ほどのパワーがないので、どうしたら良いだろうということです。いろいろと悩んだ結果、自分なりのスタイルで、色々な人に協力してもらいながら、コツコツやるしかないと思うようになりました。

Q2 遺伝研教授として、多くの研究者を育成されていらしたと思いますが、そのご経験から、女性と男性の研究者を育成する上での違いはありますか？

委員長：研究者の育成では個人指導が重要なのですが、学生やポスドクと話をする時には、どのような話し方をしたら理解してもらえるかを意識してきました。その時の経験から考えると、女性と男性の違いよりも個性の違いの方が大きいと思います。

Q3 女性研究者の承継職員を増やし、その分野の研究リーダーとして活躍してもらうためには、どのように支援をしていくべきだと思いますか。

委員長：女性研究者の承継職員を増やすためには、小学生から高校生までの年代に向けて、研究の面白さを伝え、研究者としての将来を考えていなかった女子生徒にその可能性を考えてもらうのが重要と思います。

インタビュアー
幅崎コーディネーター

女性の研究リーダーを増やすために、研究者としての成長に重要な25歳から40歳くらいの時期に出産と子育てをする人達には、研究補助者の雇用費を支援するとか、困難な時間帯の勤務を強いない配慮をすることが必要と考えています。また、研究リーダーになるには、長期的な展望が必要なので、それを持ちながら一つ一つ目先のことをこなしていって欲しい。先達はそれを励ます役割です。そして、その人の個性や環境に合ったロールモデルを知ることが役立つので、女性リーダーの多様なロールモデルを示すことができると良いと思います。

Q4 遺伝研はもともと承継職員の女性研究者比率が15%を超えているなど、ROISの中でも女性研究者を増やすという意味では牽引役となると思いますが、その辺についてのお考えをお聞かせください。

委員長：生物系ということもあって、遺伝研はROISの中では女性研究者の比率が高く、また、昔から女性研究者支援をしてきた実績は確かにありますが、楽観視はできません。牽引役というよりは、むしろ他の研究所と一緒に、有能な女性の登用と育成を行いたいと考えています。日本中の大学が優秀な女性研究者を探している現状では、将来、成長しそうな人を発掘することが重要と思います。また、若手の女性研究者がのびのびと研究ができ、育つような環境を整備したいと思います。

Q5 これから、委員長、室長として、どのようにROIS女性研究者活動支援プログラムを進めていこうと思いますか？

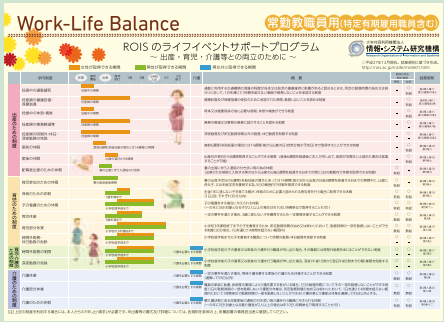
委員長：ROIS女性研究者活動支援プログラムも、今年の4月から3年目に入ります。幅崎さんが研究所に出かけて面談をしていますし、各研究所の支援室が活動をして来たので、女性研究者の現状に関する情報がずいぶん集まっているのではないかと思います。これからは、その情報も生かして方針を考え企画を立てて、実行したらさらにその結果をフィードバックするというように、改善のサイクルを回して行くのが良いと思います。

Q6 最後に、女性研究者、そしてそれを目指そうとしている大学院生たちに、一言メッセージをお願いします。

委員長：女性研究者も、それを目指す大学院生も、特に若いうちは不安や悩みが多いことと思います。研究を楽しみ、周囲の人たちとの交流を楽しみつつ、賢明な決断をされますように。

●「Work Life Balance: ROISのライフイベントサポートプログラム」カードを発行しました！

ROIS女性研究者活動支援室では、教職員の皆さまからのご要望の多かったライフイベント時に利用できるROISのサポート制度一覧カード「Work Life Balance　ROISのライフイベントサポートプログラム　～出産・育児・介護等との両立のために」を発行しました。ROIS女性研究者活動支援室、及び各研究所女性研究者活動支援室より、全教職員の皆さまへ2月上旬に配布しましたが、お手元に届いていらっしゃいますでしょうか。お手元に届いていない方は、お早めに各支援室までお問い合わせください。



各研究所「女性研究者活動支援室」の活動

●国立極地研究所

国立極地研究所は、女性研究者活動支援室準備室（平成26年12月22日～平成27年3月31日）での準備期間を経て、平成27年4月1日に女性研究者の研究力の向上及びキャリアアップを図ることを目的とする国立極地研究所女性研究者活動支援室（以下、極地研支援室）を設置しました。極地研支援室は中村卓司研究教育系副所長を室長として、長谷川和彦統合事務部長、礒野靖子URAおよび、女性研究者の研究を支援する特任教員2名（近藤豊特任教授、津野克彦特任講師）と特任研究員（辻雅晴特任研究員）の合計6名で構成されています。

国立極地研究所の女性教員数は、平成24年度末時点で2名（准教授1名、助教1名）、承継職員の女性研究者比率は4％と、情報・システム研究機構に属する4つの研究所の中で最も低い状況でした。そこで、平成25年度と平成26年度に女性限定の公募を実施し、女性研究者を積極的に登用する取り組みを進めた結果、平成28年1月時点での承継職員の女性教員が2名増加し、4名（教授1名、助教3名）となりました。さらに平成27年4月には研究所として初めてとなる女性教授が誕生したほか、同教授をアイスコア研究センター長として管理職に登用するなど積極的に女性登用を進めています。

極地研支援室の特徴的な活動として、特任教員および特任研究員による女性教員の研究指導・支援が挙げられます。極地研支援室の室員である特任教員と特任研究員3名は平成27年度機構長裁量経費によって非常勤で雇用されており、それぞれ特定の女性教員に対して、論文とりまとめに関する指導や、実験・分析装置の改良・高精度化に関する支援、化学分析等の補助などを行なっています（平成26年度末時点で女性教員は3名であったため、3名のみが支援対象）。女性教員からは、「自身の研究を効率よく進めるというだけでなく、新たな観点で研究テーマを広げることができ、大きな成果が得られた」という感想が寄せられました。また、特任教員との共同開発を通して理化学研究所との情報交換の機会が増えたことをきっかけに、国立極地研究所と理化学研究所の間でMOUが締結され、これまで以上に柔軟な技術交流、情報交換が行われ始めています。

●統計数理研究所

統計数理研究所（統数研）女性研究者活動支援室は、「ROIS女性躍進プログラム」の活動拠点の1つとして設置されました。現在、研究者、URA、事務職員からなる5名の室員が、所内女性研究者を対象としたセミナーやランチミーティングの企画・運営等、様々な活動を行っています。また、ROIS女性研究者活動支援室とも連携、意見交換を行い、情報共有にも努めています。

統数研では昨年度に続いて、H27年度も新たに女性教員を迎え、若手層の増員とともに、女性研究者比率を着実に増やしつつあります。その状況の中、まずは、所内女性研究者どうしの交流、ネットワーキング構築、意見交換等を行うこと趣旨とし、ランチミーティングを開催しました。

当日は、9名の女性参加者がテーブルを囲み、昼食を共にしながら、ロールモデルの先生のライフイベントと研究活動の継続に関するご経験談をうかがいました。気付きを得たのち、予定時間を超える活発な情報交換・意見交換の機会となりました。また、こうした場での話題が本事業の女性研究者支援制度の利用促進につながった例もあり、開催意義を感じております。

今後も、統数研女性研究者活動支援室では、女性研究者の研究力躍進に向けた各種支援や環境整備等を進めていく所存です。

統計数理研究所女性研究者活動支援室
室長：金藤浩司（副所長・教授）
室員：朴堯星（助教）、北村浩三（シニアURA）、森田宏二（企画G人事担当TL）、小川洋子（URA）

統数研ランチミーティング

女性研究者活動支援室の活動は、教職員の皆さまによって支えられています。

「こんな制度があったら、ワーク・ライフ・バランスが取れるかも」「こんなセミナーやイベントがあるといいな」といったご要望やご意見などをどんどんお寄せください。みなさまのアイディア、お待ちしています！

送信先は、女性研究者活動支援室

danjo-staff@rois.ac.jp

情報・システム研究機構　女性研究者活動支援室
〒105-6033 東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー33階
Tel:03-3433-1352, 1351　Fax: 03-3433-5062
E-mail: danjo-staff@rois.ac.jp　http://yakushin.rois.ac.jp/

●編集後記

ROIS躍進プログラムの2年目も、当初の計画以上に、様々な事業に取り組むことができました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。1年を振り返ると、もっと女性研究者のニーズに沿った事業の展開ができたのではないか、研究者を目指そうとしている女性大学院生をエンカレッジするプログラムがあったのではないかと、反省することしきりです。来年度は最終年度です。スタッフ一同、もっともっと皆様のお役に立つプログラムを展開していこうと思います。よろしくお願いします。

平成28年3月発行